OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

中国語の「V着」とそれに対応する日本語の表現

"V着" in Chinese and the equivalent in Japanese

柴　田　昭　二
*王　　学　群

目　　次

0　前　　言
1　問題のありか
2　「V着」の基本的な働き
3　中日語の対応の比較
4　おわりに

0　前　　言

法務省の発表した日本在留外国人統計によると，平成元年のわが国における外国人登録者数は前年より4.6パーセント増えて98万人あまりとなり，これは日本の総人口の0.8パーセントを占めるということである。また国内，国外を問わず日本語を学習する外国人（日本語以外を母国語とする人）が年を追って増加していることは周知のことである。

このような状況のなかで，日本語を研究の対象とする「国語学」における知見，方法が外国人のための日本語教育に活かされなければならないのは当然のことと思われる。日本語以外を母国語とする人にとっては，殊に体系的な側面を持つ文法において，日本語と母国語とを比較，対照することにより体系的に日本語を理解することができるだろう。言語の対照研究が必要とされる所以である。

＊香川大学教育学部　研究生

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

ところで日本国内で日本語を学習している人は7万人を超え，そのうち中国語を母国語とするものが最も多いということである。日本語と中国語とは漢字を共有し，語彙も共通するものが多い。しかし文法面では大いに異なるものであり，日本語を学習する中国人に困難を感じさせている。

そこで本稿は，文法の面で日本語と中国語とを対比研究し，特に中国語を母国語とする日本語学習者に理解されることを期した。もとより2言語の対照研究には，それぞれの言語に関する深い知識と鋭い洞察が要求される。したがって本稿は日本語中国語対照研究の試みの端緒を述べるのみである。

（柴田　昭二）

1. 問題のありか

「V」が動詞のことをさすとすると，「V」と結びつく中国語の「着」は結果補語，およびアスペクトを表す。結果補語の場合，「着」は「ZHAO」と発音し，アスペクトの場合，「ZHE」と発音し区別する。また，前者は動詞「着」の派生的なもの，後者はアスペクトを表す助詞と呼ばれている。

今回は，いわゆるアスペクトを表す中国語の「V着」とそれに対応する日本語の表現の仕方について，中国語・日本語対訳付きの作品から取った用例を中心に考察し，具体的な文においてそれがどう対応しているのかを明らかにしようと考えている。

なお，用例を集めた作品は主に以下のとおりである。

＊　「同じ地平にたって」（張　辛欣）〈飯塚　容ら訳〉

＊　「少年の悲哀」（国木田独歩）〈李　徳純訳〉

＊　「網走まで」（志賀直哉）〈李　芒訳〉

以上の作品を，以下それぞれ〈地平〉〈少年〉〈網走〉とだけ示すことにする。また，それ以外の作品からの用例はその例のあとに〈 他 〉で示すことにする。

2. 「V着」の基本的な働き

さきに「V着」はアスペクトを表すと述べたが，アスペクトのすべての用い方を持っているのではない。次の節のための準備段階として，ここで実例を検

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

討しながら「V着」の基本的な用法を述べておきたい。

(1)　営業庁体面而冷静。満墻掛着標価的国画。〈地平〉

／店内は，静まり返っていた。壁面いっぱいに値札のついた中国画が飾られている。

(2)　路辺的商店屋檐下，站着躲雨的人，～〈地平〉

／道ぞいの商店の軒下には雨宿りの人が立っている。

(3)　我慢慢地収拾着小小零碎。〈地平〉

／こまごました物をかたづけている。

(4)　進来時他正在説着。〈 他 〉

／入ったとき彼は何か話していた。

この四例においては，(1)，(2)は動作が実現してからその結果が状態として存在している（残っている）。つまり，「掛着／飾られている」「站着／立っている」が表しているのは「掛／飾られる」「站／立つ」という動作ではなく，その動作が終わって残した結果の状態の継続である。(3)，(4)はテンスの違いがあるが，どちらも動作の継続を表すものである。これらは「V着」の持っている，基本的なアスペクトの用法である。つまり，「V着」はアスペクトの継続相に用いられているものである。状態の継続の場合，動作の結果状態の継続だけでなく，単なる状態の継続も含まれ，動作の継続の場合，他動詞だけでなく自動詞も含まれている。(注1)

3.　中日語の対応の比較

3－1　（従属句を含む）文の述語に表れる「V着」の場合

（従属句を含む）文の述語に表れる「V着」は，現代日本語の「Vている（Vていた）」と対応する。

(5)　先の客車は案の定すいていた。〈網走〉

／不出所料，前頭的車廂果然空着。

(6)　卷子上写着：下雨，没踢。〈地平〉

／答案（用紙に）はこう書かれている。「降雨のために試合は中止。」

［（　）は論者注］

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

(7)　子供は耳と鼻とに綿をつめて居た。〈網走〉

／孩子的耳鼻都塞着綿団。

(8)　一位父親熱心地教着：“説，謝謝　阿姨！”〈地平〉

／父親が叱っている。「おばさん，ありがとう――って言いなさい！」

(9)　有的不停地揮着手臂。〈地平〉

／ある者は絶えず手を動かしている。

(10)　二人は何か話しているらしかったが，遠くからでは何も聞こえなかった。〈 他 〉

／両個人在説着什么，一点児也聴不清。

下線を引いたところは対訳されている表現であるが，(5)は単なる状態の継続を表す例であり，(6)，(7)はその動作の結果がその状態として存在していることを表す例であり，(8)，(9)，(10)は動作の継続を表す例である。（従属句を含む）述語に表れる「V着」は「Vている（Vていた）」と対応することが多いようである。なぜ日本語の「Vている（Vていた）」とよく対応するかというと，それはちょうど日本語の「Vている（Vていた）」がおもに状態の存続と動作の継続を表すからである。(注2)

しかし，動作の対象即ち目的語を主語とする他動詞の場合は日本語には「Vてある」という表現方法があるが，中国語ではやはり「V着」という表現方法を使うのである。

(11)　水渠両旁栽着高高的白楊樹。〈 他 〉

／用水路の両側に丈の高いポプラの樹が植えてある。

(12)　そして次の間を開けると酒肴の用意がしてある。〈少年〉

／里間那児擇着準備好的酒和酒菜。

また，日本語においては「Vる（Vた）」という形で中国語の「V着」と対応する例もある。

(13)　常常在傍晩，我們倆坐在郊外湖畔，看着一片片白帆漸漸消融在夜色中。〈地平〉

／夕方になると，おれたちは郊外の湖畔に腰をおろし，白い帆船が夕闇に消えていくのを眺めた。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

⒀のように，ある時点からある時点までの間に，ある動作が習慣的継続的に行われていたこと，即ち動作の反復を表すために，中国語では「V着」という形を取る必要があるが，日本語では動詞のみで表現することができる。⒀の訳はそうであると思われる。(注3)

3－2　「3－1」以外の「V着」の場合

（A）ある状態のまま次の動作に入る。この場合は「V_2」を要求するので形としては「V_1着V_2」になる。「V_1着」と「V_2」は修飾と被修飾との関係である。日本語では「V_1たまま（に，で）V_2」または「V_1てV_2」の形が取られている。

⒁　有的在墻辺蹲着 抽烟，有的焦点急地踱来踱去。〈地平〉
／壁ぎわにしゃがんで煙草を吸っている者，イライラしながら歩き回っている者。

⒂　男人与男人之間，只要恨上了，咱們就黙々咬着歯干下去。〈地平〉
／だが，男同士の場合は一度敵対したら最後歯を食いしばって戦いぬくしかないのだ。

⒃　「さっきから見てるのよ，成程よく似ていると思って感心しているのよ。」と女は言って笑いを含んでちょっと僕の顔を見ている。〈少年〉
／“我已経端詳半天了，真是一模一様，我算是服啦。”女人説完，含着笑，目不転睛地看我。

⒄　隣居們来看他，他只好躺着 講話。〈少年〉
／隣の人たちが会いに来ると，彼は横になったまま話をするより仕方なかった。

⒅　坐着 講。〈 他 〉
／座ったままで話す。

以上，⒁から⒅までの例の「V_1着」は全てある時点からあるいはこれから，ある状態が持続的に存在するということを表示している。⒁は「しゃがんでいる」という状態，⒂は「歯を食いしばっている」状態，⒃は「笑いを含んでいる」状態，⒄は「横になっている」状態，⒅は「座っている」状態である。それ

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

らは，同時または次に行われる動作「V_2」に対しての，補うような「状態の存在」である。つまり，⒁から⒅までの例における「V_2」の主体は「V_2」を実行するときに，具体的にどういう状態の下にあるかについて「V_1着」によって表されているのである。たとえば⒃では，女が「ぼくの顔を見ている」とき，彼女の顔に笑いを含んでいるという表情的状態にあることが「V_1着」によってわかる。また「V_1着V_2」の「V_1」も「V_2」も同じ主体に支配されているという特徴がある。

この用法の「V_1着」には「3－1」の「V着」とやや違う面があるようで，完全にアスペクトの用法であるといいきれるかどうかはまだ問題であるが，少なくとも状態の存続のことが読み取れるという点からアスペクト的な用法であるといえよう。またそれに対応する日本語の表現の「V_1たままV_2」と「V_1てV_2」における「V_1たまま」と「V_1て」の部分はただ「V_2」の修飾語であるというだけでいいかどうかも考えさせられる。やはり「V_2」との関係でアスペクト的ではないかと思われる。

（B）　ふたつの動作を同時に行うことを表す。この用法でも「V_2」を要求するので，やはり「V_1着V_2」となるのである。日本語の「V_1ながらV_2」に対応する場合が多い。

⒆　大平慢慢地<u>啜着</u>酒，很有興趣地<u>説着</u>他的全部苦悩。〈地平〉
　／大平は酒をチビチビ<u>やりながら</u>調子にのって愚痴を<u>並べ立てている</u>。

⒇　一個帯罩袖的姑娘<u>哼着</u>歌<u>走過</u>。〈地平〉
　／腕カバーをはめた娘が鼻歌を<u>歌いながら通りかかった</u>。

(21)　僕は陸の方を<u>見ながら</u>黙って此話を<u>聞いて居た</u>。〈少年〉
　／我<u>望着</u>遠方的陸地，黙不作声地<u>聴着</u>。

(22)　<u>笑着</u><u>鬧着</u><u>跳進</u>了游泳池。〈 他 〉
　／笑ったり大声を<u>あげながら</u>プールに<u>飛び込んだ</u>。

以上の四例は前の動作と後の動作とが同じ主体によって同時に行われているものであるが，前の動作は後の動作のためのものであって従属的な存在である。つまり「V_2」が中心的な動作であって，「V_1」はこの「V_2」が行われる時

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

どういう状況にあるかの説明である。この点は中国語の用例だけでなく日本語のそれに対応する表現に対しても言えると思う。中国語でも日本語でも「V_1」は後の動作「V_2」との関連で，瞬間の動作ではなくある時間帯に行われているわけである。即ち時について幅のある動作である。例えば，(21)では「僕」は陸の方を見ているという状態で次の「聞く」という動作を実行し，そして一定の時間ずっとそのままだったことを表している。それで，この用法では中国語「V_1着」の場合はもちろん，それに対応する日本語の「V_1ながら」もアスペクト的であろう。

ところで，(22)は形式的には「笑着鬧着跳進」のように「V_1着V_2着V_3」のかたちになっているが，この例の「笑着鬧着」は実際にはひとつの固まりになって論者の言う「V_1着V_2」の「V_1着」にあたるものであって，全体として「V_1着V_2」の例と考えることができる。

（C）　「V着」を二回繰り返して動作の継続を表し，その繰り返しのうち1次の動作が実現する。かたちとしては「V_1着V_1着（V_2）」になるものも多い。日本語の「Vているうちに」「Vていくうちに」にあたる。

(23)　想着想着笑了起来。〈 他 〉
　　／考えているうちに，笑い出してしまった。

(24)　説着説着不覚到了門口。〈 他 〉
　　／言っているうちに，何時の間にか入り口にきていた。

(25)　走着走着天色已経暗了下来。〈 他 〉
　　／歩いていくうちに，もう空が暗くなってきた。

この用法は中国語では主に一音節の動詞に多く使われている。中国語の場合も，またこれに対応する日本語の場合も，ある動作がある期間内に行われる有様をあらわすので，やはりアスペクト的であると思われる。また日本語の場合は例えば「考え考えしているうちに」「言い言いしているうちに」「歩き歩きしているうちに」のようにも使われる。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

（D）　また，以下のような対応をする表現もある。

㉖　「此拠においでなさい。」と窓の所を一尺許りあけて～　〈網走〉
／“請倒这辺来。”我突然説着 譲出靠窓的一尺左右的空位来。

㉗　他的社会経歴欄下，掛着一串学校的名称。在学歴那一欄，倒堂々正正，令人羨慕地写着：高中毕業。〈地平〉
／経歴の欄には学校の名前が並び，最終学歴の欄には「高等学校卒」の文字が誇らしげに記されていた。

㉖にある線を引いた助詞「と」は「説着」という中国語に訳されている。日本語の場合は「といって（といいながら）」で表現しないで，内容や引用を示す助詞「と」だけで表現することが少なくないが，これは一種の省略的な表現の仕方であろう。中国語と対訳するとき，普通「説着」と訳されており，「説着」の「着」が省かれることはあまりないし「説着」全体が省略されることはさらに考えにくいのである。中国語の訳の「説着」から見れば，「３－２」の（B）の例にはいるが日本語の原文で助詞「と」と対応しているので，特別視してここで述べたのである。

また，㉗の対訳として「‥‥が並び，‥‥が記されていた」という形を取っているが，中国語の場合は「掛着」の「着」を省略することが不可能である。日本語の場合は「‥‥が並び，」という形であっても後ろの動詞「（‥‥が）記されていた」との関係でアスペクトの文法的な働きが感じられる。この点から中国語と日本語の構文上におけるアスペクトの支配力が違うといえよう。この例は中国語のことだけを考えるのならば「３－１」で述べるべきであるが，対訳の特徴を考えてここで述べた。

4.　おわりに

以上，中国語の「V着」とそれに対応する日本語の表現の仕方について具体的な用例に即して述べてきたが，文の述語に表れる「V着」は日本語の「Vている（Vていた）」と対応するのが一般的である。動作の対象即ち目的語を主語とする他動詞の場合は，「Vてある」と対応するのである。この用法では，状態の存続と動作の継続に限られている。また，文中に表れる「V着」は，（A）で

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

は「V_2」を要求するので，形としては「V_1着V_2」になって日本語の「V_1てV_2」「V_1たまま（に，で）V_2」にあたり，（B）では「V着」がやはり「V_2」を要求するので「V_1着V_2」というかたちになって日本語の「V_1ながらV_2」にあたり，（C）では「V着」が二回繰り返されて日本語の「Vているうちに（Vていくうちに）」にあたり，（D）は特殊のものであるが，「説着」は助詞「と」と対訳する場合も多いし，中国語の文中に表れる「V着」の「着」が省略できないが，日本語としては連用形で対応することもできる。

また，（A）（B）での「V_1・V_2」はみな同じ主体によるものであり「V_1」は共に「V_2」のための従属的な存在である。特に（A）の場合はより典型的である。ただし，（A）の「V_1」は状態的であり（B）の「V_1」は動作的である。さらにこの考察を通してもう一つのことが言えると思う。それは，日本語の「Vながら」「Vて」「Vたままに」などからも前後との関わりでアスペクトの文法的な働きが感じられるということである。　（王学群）

注1　金田一春彦（1976）はアスペクトの観点から，日本語の動詞を4種に分類する。

㈠　状態動詞 ――「ある」など。「―ている」をつけることがない。

㈡　継続動詞 ――「読む」「書く」など。「―ている」をつけると，その動作が進行中であることを表す。

㈢　瞬間動詞 ――「死ぬ」「（電灯が）点く」など。「―ている」をつけるとその動作・作用が終わってその結果が残存していることを表す。

㈣　第四種の動詞 ――「聳える」「すぐれる」など。いつも「―ている」の形で状態を表す。

用例(1)・(2)の日本語動詞「飾られる」「立つ」はここでいう「瞬間動詞」に当たり，用例(3)・(4)の「かたづける」「話す」は「継続動詞」に当たる。

2　用例(6)・(7)の日本語動詞「書かれる」「つめる」は「瞬間動詞」，用例(8)・(9)・(10)の「叱る」「動かす」「話す」は「継続動詞」に当たる。用例(5)の「すく」は「継続動詞」の用法も持つが「第四種の動詞」と考えられる。

3　反復や習慣を表すのに，日本語においては「―ている」の表現も可能である。

「毎朝，歯を磨く。」　「毎朝，歯を磨いている。」

「夕方になると（いつも），おれたちは郊外の湖畔に腰をおろし，白い帆船が夕暮

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

れに消えていくのを眺めていた（眺めたものだった）。」

参考文献

黄　伯栄ら　1981　『現代漢語』　（甘粛人民出版社）

『辞海』編集組　1979　『辞海』　（上海辞書出版社）

金田一春彦編　1976　『日本語動詞のアスペクト』（麦書房）

高橋　太郎　1985　『現代日本語のアスペクトとテンス』（秀英出版）

寺村　秀夫　1983　『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』（くろしお出版）